

第8回市史講座ミニレポート：平成30年11月3日（土）

「松江城下町の考古学－地面の下の松江城下町遺跡－」

小山泰生先生（松江市スポーツ・文化振興財団主任）

「松江城下町遺跡」の調査は、松江歴史館建設や大手前通りの拡幅などに伴い平成18年（2006）度から平成29年（2017）度までの約12年間をかけて行われました。

今回の講座では、「松江城下町遺跡」の発掘調査に関わってこられた小山泰生先生に、現時点での発掘調査の成果から判明したことについてお話しいただきました。

小山先生は、まず近世考古学について説明されました。近世考古学とは、「松江城下町」のような、「近世」の遺構や遺物を対象とする考古学の分野です。それと併せて、陶磁器研究についても説明されました。「松江城下町遺跡」からも、多数の陶磁器が出土されているように、近世考古学と陶磁器研究は、ともに昭和から平成にかけて調査研究が進められてきました。

「松江城下町遺跡」の発掘調査は、全国的な調査研究から見ると後発となりましたが、調査研究が一段落して、各地で蓄積された成果を投影することができるという恵まれた環境にあったそうです。

次に「松江城下町遺跡」の発掘調査の経過についてお話しいただきました。

松江城下町の成立は、17世紀初頭の堀尾氏による松江城築城に始まりました。城下町は、築城以前からあった集落を取り込むように、形成されていきました。集落の周辺一帯には低湿地帯が広がっていました。発掘調査で、その頃の地層から「水田跡」や「湿地の堆積層」が見つかっています。中でも、米子川西岸の「水田跡」からは、イネ、ソバ、セリなどの花粉が検出されました。ここからは、人の足跡も見つかりました。この足跡については、城下町造成時のものなのか、それ以前の水田の耕作をした人のものなのか検討中だそうです。



松江城下町では、初めに、城下の屋敷地と屋敷地を区画するための屋敷境大溝と、道路と屋敷地を区画するための区画境大溝の2種類の素掘りの大溝が造されました。区画境大溝については、他府県の城下町遺跡に見られない「松江城下町遺跡」の特徴ある遺構だそうです。この区画境大溝は排水を目的としたものではなく、掘削して土地を乾かすために造られました。素掘りの大溝を掘削した時に出てきた土は、盛り土として使われました。

屋敷境大溝は、改修を加えられながらも長期間にわたって維持管理されましたが、区画境大溝の方は城下町の造成完了後に一気に埋め戻されました。その後、城下町全体は一律にかさ上げされたのではなく、各屋敷地単位でのかさ上げ造成が行われたようだと説明されました。

発掘調査では、南田町で堀の底に、侵入者が身動きできにくくなるように凹凸を作った障子堀（しょうじぼり）【写真1】が発見されました。また、南田町では盛土を行う時に土の間に葉や枝などを敷き詰めて、地盤を固めた「敷葉（しきば）工法」で造られた土手も見つかりました。母衣町では外堀石垣の一部が見つかりました。流通・防災・防御のために、土手や外堀を整備して、城下町は発展していきました。

「松江城下町遺跡」を発掘調査していく中で、様々な遺物が出土しました。そこから、城下町の人々の暮らしの一端が見えてきました。

武家屋敷では、殿町の重臣屋敷や南田町の家老大橋家の屋敷地内にあった与力（よりき）屋敷【写真2】の発掘調査で、屋敷の規模・構造・変遷などをうかがうことができました。出土遺物の、陶磁器類・木製品などの生活道具、食物の残滓（ざんし）、果実の種子、加工された獸骨・骨角（こっかく）製品【写真3】などからは当時の生活をうかがい知ることができました。



左【写真1】障子堀（南田町）、右【写真2】大橋与力屋敷の礎石建物（南田町）

町屋の暮らしそも、発掘調査によって武家屋敷地では見られない多種多様な職種に関わる遺物が出土しました。例えば米子町の場合、漆塗り容器が出土した所には塗師（ぬりし）、墨壺（すみつぼ）・差金（さしがね）・ぶんまわし（コンパス）・錐（きり）など【写真4】が出土した所には大工が住んでいたのではないかと説明されました。

また、「松江城下町遺跡」では数万点の陶磁器が出土しました。その陶磁器の編年研究は、目下進められているそうです。今後の研究が期待されます。

最後に小山先生は、「松江城下町遺跡」の発掘調査によって文献史料には残っていない当時の姿が断片的にではあるが、明らかになってきたと説明されました。そして、今後は「松江城下町遺跡」を様々な視点から見直し、遺構や出土物の共同研究を継続的に進めていくことで、より豊かな松江城下町像を描くことができると言えていますと締めくくられました。



左【写真3】武士の食材（哺乳類・魚類・鳥類・爬虫類・貝類）、右【写真4】大工道具（墨壺・差金・ぶんまわし・錐等）

※遺跡と遺物の写真は、すべて『松江城下町遺跡～大手前通りの調査成果～』（2018年3月発行）パンフレットより。冊数に限りはありますが、会場では市史講座テキストと併せて同パンフレットを配布しています。ご希望の方は会場受付にてお申し出下さい。